

CNS・CNから学ぶエビデンス

BCG膀胱内注入療法
(以後BCG膀胱注)後に尿の抗酸菌培養
から結核菌検出事例

感染管理認定看護師 宮村 純子

先日尿から結核菌が検出されたこと検査部から報告を受けた。カルテを確認するとBCG膀胱注後の患者であった。BCG膀胱注は膀胱癌の治療の一つであり、注入するBCGはイムノブラダー[®]である。ウシ型結核菌を弱毒化して作っている。添付文書には「生菌製剤であり、米国において院内感染の報告がある」「免疫抑制者には禁忌」「重大な副作用としてBCG感染」との記載がある。膀胱注後の尿中結核菌培養で50例中3例が陽性であったという報告がある。¹⁾飛沫が発生しない肺外結核では空気予防策は不要である。²⁾この患者の場合は外来通院であるが、たとえ入院中であったとしても隔離は不要である。エアロゾルが発生しないように、座位で排尿し、水を流す時は便器の蓋を閉めてもらうなどの対応は必要と考える。

今回の事例ではQFT陰性であったため、BCG副反応としてLVFXが投与されている。



引用文献

- 1) BCG膀胱注療法後の抗酸菌培養. 泌尿器外科 2013年 26 (3) 330~337.
- 2) Garner JS, the Hospital Infection Control Practices Advisory Committee. Guidelines for Isolation Precautions in Hospitals. Am J Infect Control, 1996;24-31.

がん化学療法と妊孕性について

がん化学療法看護認定看護師 森宗 あゆみ

がん治療を受ける患者さんに対して、妊孕性温存について考慮する必要があると言われるようになりました。妊孕性温存とは、特に、若年がん患者に対して、将来子供をもつ可能性が消失しないように、生殖能力を温存するという考え方です。これには、若いがん患者さんが増えてきたこと、また治療の進歩によって長期生存が見込めるようになってきたことが大きく関係しています。

性腺組織は、抗がん剤の影響を受けやすく、障害が不可逆的となり得ると考えられています。頻度は、①年齢②抗がん剤の種類③抗がん剤の投与量が関係すると考えられていて、下に示す薬剤は影響が大きいとされています。(表1)特に、エンドキサン[®]などアルキル化剤の性腺への毒性は強いと考えられています。ASCO(The American Society of Clinical Oncology)は2006年にがん患者における妊孕性温存に関する指針を出し、2013年に改訂されています。日本でも様々な学会が妊孕性温存について取り上げ、ガイドライン制定へと動き始めています。まず、医療者である私たちが妊孕性温存について意識をし、知識を得ていくことが重要です。そして、患者さんへ情報を提供していくことが求められる時代になってきています。

表)化学療法による性腺に対するリスク

| 高リスク | 中リスク | 低リスク |
|--|----------------------|-------------------------------|
| アルキル化剤+全身または骨盤放射線療法 | ランダ [®] | アルキル化剤以外の白血病レジメン |
| 高用量エンドキサン [®] | ドキソルピシン [®] | アントラサイクリン系+キロサイド [®] |
| テモダール [®] (またはギリリアデル [®])+放射線療法 | AC療法 | エンドキサンを含む乳癌治療 |
| | FOLFOX6療法 | |

参考文献

- 1) 鈴木直; がん患者に対する妊孕性温存の診療の現状と問題, FUJI Infertility & Menopause News, 富士製薬工業株式会社, 2014
- 2) 日本がん・生殖医療研究会; がん・生殖医療妊孕性温存の診療, 医歯薬出版, 2013



大学から学ぶエビデンス

「こころの内を書き表す」ことはがん患者のつらさの緩和に有効だろうか?

保健学研究科 臨床応用看護学領域 秋元典子

Expressive writing(EW)とは、James W. Pennebakerが確立した心理的介入方法です。自分のつらい感情や思いを余すこと無く書き表すこと(writing)によって、立ち直ることができることとされる方法です。この方法のがん患者への効果について、先行研究のメタ分析による統合的知見が報告されました。EWによる、がん患者への心理的効果は認められなかったが身体的症状緩和効果は軽微ながらもあったと報告されています。心の奥底の思いを書くことで身体的症状緩和効果が期待できる可能性があるようです。一方、本来の目的である心理的苦悩の軽減・緩和には有効でなかったため、がん患者に特化したEW方法の開発が必要であると著者は結んでいます。

出典 : Pok-Ja Oh, Soo Hyun Kim. The Effects of Expressive Writing Interventions for Patients With Cancer : A Meta-Analysis. Oncology Nursing Forum, 43(4), 468-479, 2016



平成28年度「EBPワークショップ」を開催しました



平成28年9月3日(土)に倉敷中央病院 総合診療科 主任部長の福岡敏雄先生を講師に、平成28年度EBPワークショップを開催しました。院内から看護職8名、薬剤師4名、院外から看護職12名、看護教員2名、歯科医師1名、理学療法士1名、図書館司書1の計29名が参加しました。遠くは東京からお越しいただいた方もいました。

午前中の前半部分は、倉敷中央病院 図書室 司書の玄馬寛子さんにGoogle検索、Googles Scholarの仕方、医中誌などの具体的な検索方法について講義をしていただきました。講義中、パソコンにキーワードを入力して、実際に検索してみました。



午前中後半は、福岡敏雄先生からPubMed検索やどのように論文を読むかのコツについてご講義いただきました。日々の事例を挙げながらの分かりやすい講義に受講生は熱心に聞き入っていました。

午後からは、1グループに1名ずつファシリテーターに入ってもらい、英語論文を読み解くグループワークを行いました。用いた論文は「**Safety and Benefit of Discontinuing Statin Therapy in the Setting of Advanced, Life-Limiting Illness A Randomized Clinical Trial**」です。(JAMA Internal Medicine May 2015 Vol.175, No.5:691-700: PMID25798575) この論文は、進行癌の患者さんにスタチン処方の継続の必要性について、検討する内容でした。



論文の研究デザインや結果をどう捉えるか、この研究結果を患者に適用できるかなどチェックポイントに沿って議論し、発表しました。英語への苦手意識があったり、読むことに

難しさを感じる意見もありましたが、「少人数のグループワークで相談しながら論文の読み方を学べた」「英語をじっくり読むのではなく、キーワードや図を活用することが大切だとわかった」「様々な職種の方と話ができて、新しく気づくこともあり、とても楽しかった」といった、前向きな意見も多数ありました。

来年度も開催の予定です。ご参加をお待ちしています。

待って
ます



開催予告

「文献検索研修」開催!! 日々のケアについて紐解いてみたいけど、自分の目指す文献にたどり着くにはどう検索したらいいんだろう...とお悩みの皆さん、文献検索を初歩から学べるチャンスです。開催は、平成29年**1月18日(水)・2月28日(火)・3月29日(水)**の18時~19時です。対象は看護職で院内・外は問いません。受講を希望される方は、**氏名・施設名・所属・連絡先**を明記し、**ebnkango@cc.okayama-u.ac.jp**までお申込ください。各研修日**先着20名**です。詳しくは研修案内チラシやホームページをご覧ください。



岡山大学病院 看護研究・教育センター



【タイトル】 Empagliflozin, Cardiovascular Outcomes, and Mortality in Type 2 Diabetes (雑誌名: The NEW ENGLAND JOURNAL of MEDICINE、発刊年: 2015年、著者: Bernard Zinman, M.D.、PMID: 26378978)

【論文の紹介者】 岡山大学病院 薬剤部 井川祐輔

【論文概要】

2型糖尿病患者における、糖尿病治療薬エンパグリフロジン(SGLT2阻害剤)の心血管疾患罹患率や死亡率に対する影響を検討したプラセボ対照、二重盲検比較試験。心血管イベント高リスクの2型糖尿病患者において、上記薬剤を標準治療に追加したところ、心血管死は38%、心不全による入院は35%、総死亡リスクは32%減少した。

【緒言】

担当患者への上記薬剤の処方意図・期待される効果について学習する目的であったが、患者背景が一樣ではなく、既存の糖尿病治療薬との比較も行われていないため、本論文のみでの議論には限界があると考えられた。よって、他の糖尿病治療薬についての報告と比較検討することが必要との結論になった。

【編集後記】 師走になりました。今年も残すところ半月程度。1年があつという間です。9月に開催したEBPワークショップは院内・外の看護職・看護教員・薬剤師・歯科医師等、様々な職種の方にご参加いただき、楽しく学ぶ場となったように思います。研究に関して企画して欲しい研修・研究支援依頼などお声をお寄せください。お待ちしております。(馬場)